

NETWORK since 1983 TERRA

VOL.124

2006



目次

CONTENTS

■特集

総会報告

.....4~6

ミャンマーよもやま話.....7

行く人来る人.....8~9

■連載

第三の眼.....2

とげずと云ふことなきなり.....3

サバイディー ータイからの手紙ー ...10



5月に完成したナウンカ研修センター

ナウンカ研修センターの落成に思う

地球市民の会理事 平野 喜幸

現在TPAがミャンマーで行っている「循環型共生社会の創造」という農村開発プロジェクトは(財)カラモジアから引き継いだものであるが、カラモジアがプロジェクトを始めた頃からは幾分進化している。一九九八年カラモジアが始めたインレー湖流域共生プロジェクトは二〇〇〇年暮れのキンニユン第一書記(当時)の訪問により、それまでの実績が評価され二〇〇一年から南シヤン州総合開発計画が加わり、後者をメインとしてTPAに引き継がれた。

南シヤン州総合開発計画の舞台として選ばれたのが、この度三つ目の研修センターが落成したナウンカ村を中心とするボー地域であった。十年のプロジェクトのビジョンを考えた時、最終的に成果として残すべきは水力発電や学校などを幾つ造った、或いは土着園の技術をどれだけ広めたということではなく、志ある人材を如何育てるか以外に無いと考えた。そこを出発点としてまず始めに将来の農村リーダーを育てるタンボジの「農村青少年育成センター」、次に循環型農業や循環型開発の普及の観点から村で農業を営み生活している人々ためにピンダヤ「農民研修センター」を開設した。そして、その総仕上げとして考えていたのが、今回落成したナウンカの「農村開発人材育成センター」であった。

開発とは突き詰めていけば自分を知り他の人々への慈悲を實踐し、その広がりとして地域社会が良くなっていく運動に収斂していく。三つ目の研修センターが目指したものはそれを實踐できる各村の村長や助役レベルでの人材育成であった。人々の幸福や社会の安寧は少数の個人だけが良くなっても実現できないからである。

三つ目の研修センターはナウンカ村にあるがナウンカ村の人達のためにあるのではなく、ボー地域全体の浮揚のためにある。一つ一つのプロジェクトは実施すれば数ヶ月で終ってしまいが、それらを積み重ね運動としていくことは息の長い作業である。それを實現するために必要なのが確かな理念と志あるリーダーである。わが地球市民の会には「平成の三誓文」と呼んでも差し支えない、一九九二年に全人類へ発したテラ・アピールという二十一世紀を拓くための確かな理念が存在する。それを研修センターの中心に据えて地球市民運動を實踐する人材が育たんことを切に願っている。

合掌

世界の平和と親善 地域社会の向上発展



TERRA PEOPLE ASSOCIATION

特定非営利活動法人

地球市民の会 TERRA PEOPLE ASSOCIATION

840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10 TEL 0952-24-3334 FAX 0952-24-7321

E-mail:office@tpa.nk-i.net

ホームページ:http://tpa.nk-i.net



テラリング全国ネットワイク構築へ

―全国の皆さんと是非お会いしましょう―

地球市民の会会長 古賀 武夫

皆様お久しぶりです。お変わりございませんか？

あつという間に今日は七夕、あいにく外を見ると曇り。牽牛と織女は果たして一年に一度のデートができるでしょうか。というのには要らぬお節介かも知れませんが、今月二日から五日まで三泊四日の近畿、東海地方への訪問は、日本も広いなという事を感じる旅でもありました。

今度の旅行中、三日には岐阜羽島の大野一明郎（地球市民の会岐阜副会長）に泊めて頂いたのですが、まず仏間に入りますと、七夕の短冊のほか、私がこれまで見たこともない「盆提灯」が、所狭しと飾つてあるのです。やはり、岐阜や愛知は結婚式などでも派手だとは聞いたが、七夕も盆も一緒にお祭りされるのか、と感心しながら大野氏と話をしておりました。私が盆提灯と思っていたのは、実はそうではなく、牽牛と織女をかたどった提灯で、七夕用だったのです。それにしても、そんなものは私の郷里佐賀では見たことも聞いたこともありません。やはり、日本国内でも文化の違いは沢山あるのです。違う地方で働く、生活する、あるいは嫁として嫁ぐ、色んなケースがあるでしょうが、同じ日本と思っているだけに、苦勞もあるのかもしれない。そういうば、うちの嫁さんも、私と同じ佐賀市の出身でありながら、我が家に嫁いで、人生最大のカルチャーショックを受けた、と言っていました。人生色々というところでしょうか。

さて、今回の旅の発端は、神戸市外国語大学での映画「人間の翼」上映会および講演（パネルディスカッション）でした。神戸市外大の富永君（そうげん代表：三重県久居市、現在津市出身）が、過日佐賀の私の所を訪れ、人間の翼のみならず、地球市民

の会ほかの活動について話をききに来たのです。彼は既に神戸で人間の翼の話聞き、なんとしてでも神戸市外大で上映会を開き、学生さん達に主人公石丸進一の生き方を知ってもらいたいと言うのです。私は彼の熱意に打たれ、神戸に行き話をさせていただくことになりました。富永代表や、高木実行委員ほか委員会メンバーの一所懸命の頑張りで、会はその予測と期待をも超え、三百人以上の参加を得て、大成功となりました。委員会の中には、古賀道場出身のロシア語科三年の中原明子さんも、おそろしく頑張ってくれていました。閉会の言葉の中で、高木君は成功の感動に涙に咽びながら、「この場を借りて、前から言わせていたことがあったことをひとつ言わせてください。実は、ここに私の両親も来ています。」そして、一呼吸おいて、「お父さん、お母さん、僕を生んでくれて、有難う！」私は、高木君始め、この会を成功に導いたすべての学生の皆さんに心からエールを送りました。

その夜は、遅くまで、神戸の皆さんと熱く語り（もちろん、兵庫県以外からも沢山お見えになって頂いていました）、神戸地球市民の会を立ち上げる雰囲気が高まりました。翌朝、岐阜羽島で大野君の歓迎を受け、その足で三重県津市地球市民みえの会の伊藤会長、栗田顧問、秋葉事務局局長ほかと昼食をご馳走になり、九月十八日にみえの会の総会を開催することが決まりました。皆さん、お忙しいのに本当に良くして頂きます。

昼食後、岐阜市に引き返し、今度は岐阜地球市民の会の皆さんと久しぶりの再会です。ここには、名古屋から水野新平会員（株式会社ユー社長）も駆けつけて頂き、岐阜の森会長も東京出張から押っ

取り刀で駆けつけて頂きました。ここでは、主にミヤンマープロジェクトの話が出ましたが、さすがに親子ツアーを出している会だけに、話が熱がこもっていました。

翌日は、岐阜羽島から京都へ。京都では、昨年まで佐賀県の陶彩画家草場一壽氏の下で修行していた宮川尚子さんと会い、京都造形芸術大学の原田憲一教授（地球物理学）を訪れ、同大学内のこども芸術大学（研究所の位置づけ）を見学させていただき、夢の学校開設に向けて多くの示唆を頂くことができました。こども芸術大学は、芸術を中心に混沌とした現代社会に「和」をもたらし、未来を切り開いていく子供たちを育てていこうと言う趣旨で、お母さんと三歳児から五歳児のこどもたちを中心とした生活と学びの場です。一緒に行った宮川さんも大喜びで、京都地球市民の会も立ち上げましょう！という話も現実化してきました。

そして、その夜は大阪へ行き、関西国際交流団体協議会設立二十周年記念レセプションに出席、七八年ぶりに、関東関西の日本の国際交流、国際協力の第一世代とでも言うべき懐かしい方々と再会することができました。レセプションが終わるや否や、あらゆる面で長年お世話になっている大阪のうどんすきの老舗「美々卯」の薩摩社長とゆっくり話す時間を頂き、貴重なお話を聞かすことができました。

これであとは寝るだけ、と思うが早いか、神戸からまた話をしよう、と電話があり、再び神戸に戻って午前零時ごろから午前五時ごろまで超熱い時間を持つことになったわけです。と、言うことで、くたくたになって佐賀に戻ってきましたが、これから、久方ぶりの全国行脚を再開する時期が巡って来たようです。七月二十日前後はおそらく東京や横浜で、又、その他の地域へも今年は一度はお邪魔したいと思っております。その節はどうぞ宜しくお願ひ申し上げ、当会の活動に、尚いっそうのご協力をお願い申し上げます。



（平成十八年七月七日）

地球市民運動

人 社会 自然 の相互依存を十分認識し
すべての いのち を慈しみ 強く 優しく 豊かに 美しく育てる

第9話 「山あり、谷あり」

ミャンマープロジェクトマネージャー 大野 博之

どこの国のどんな事業でもすんなり進むものは滅多に無く、いつも思いがけない問題が発生し、悩まされることがある。私がミャンマーに来て問題なく思い通りにことが進んでいる事業というのは皆無といっても過言ではないと思う。

そんな状況の下、ミャンマープロジェクトで最も苦勞している事業がナウンカ研修センター建設運営事業である。この研修センター建設・運営事業は JICA（国際協力機構）との「草の根技術協力事業パートナー型」で進めているのだが、事業に着手した時点より多くの課題を抱えていた。この事業の企画立案に伴う設計見積は既に 2002 年に行われていたのだが、JICA との交渉を続ける中、採択時には既に 2 年の歳月が経っていた。この間にミャンマー国内では急激なインフレが起こっていた。欧米からの経済封鎖をされているミャンマーでは、経済の低迷の中アジア通貨危機を克服したタイなどの周辺国の好景気と、中国インドからの資金流入による需要の拡大を原因に、建設資材を筆頭に急激な物価上昇が起こっていたのである。すでに資材等の価格は 2 倍以上に上がっており、当初設計の建物を建設するためには見積りの金額内では造ることができないことが判明した。そ



作業に励む建設スタッフ

れだけではない。この建設運営事業を始める際の TPA の目的は「センターでの短期の研修及び加工作物の研究を通して、村落開発を担う地域のリーダーの育成を行うこと」であった。しかし、事業実施時に再度調査したところ、事前に調べた調査結果とは異なり、PNO の事務局長の要望は将来のポオー地域の農民リーダーをタンボジ研修センターのように長期間の研修で育てることであり、地域の住民は新しい作物を学ぶことであった。村の責任者は作物を長く保存する方法を教えて欲しいと言った。検討の結果、TPA の意思のみに沿って当初計画どおり事業を行えば、直接受益者の事業に対する当事者意識に支障が出るという判断をし、できるだけ現地の要望を汲み上げることになったため全面的な設計のやり直しが必要になった。実際に建設が開始されると、石油原価高騰により建設資材の急激の上昇が起こり、ガソリンについては 3 倍に値段が上がり、それに伴う工業製品も軒並み上がった。当初計画の予定外に生じたコスト、燃料急騰のため電気が村から供給できなくなった問題、当初計画よりも周辺住民の数が増えたため村から水供給が出来なくなった問題、その二つの問題解決のために井戸水を汲み上げるエンジンコンプレッサー、発電機を導入しなければならなくなったことなど新たな課題が発生した。しかも、井戸の水が当初良好だったのが泥混じりの水となり生活用水として支障をきたしたと、安い中国製のエンジンは常に故障することなど、問題山積状態が続いていた。更に、過去 TPA には建設後の運営をするという事業の経験がなかったために、運営費の計上をしていなかったという大きな問題が出てきた。これまでは、単なる建設事業の後、現地カウンターパートに引き継ぎ、運営を任せ、適時チェック及びアドバイスするというものが大勢だった。TPA は大きな授業料を払い、得がたきものを得はしたが、その代償は大きく、今後この研修センターの資金調達に我々は大きな労力を払わなければならなくなる。



建設中のナウンカセンター

このような多くの問題を乗り越え、5月末にて工事を完了し、6月20日の落成式と20日から3日間の記念研修を行うところまでやっとこぎつけることができた。しかし、落成式を4日後と控えた17日、中央から派遣された軍のこの地域の司令官であり、この地域の最高権力者であるコマンダーからの式開催の許可が下りず、延期となってしまった。1ヶ月前から準備を進めていた私としては、やるせない気持ちでいっぱいになった。

何から何まで問題ばかりのこの事業だが、救いというものはずもあるものだ。落成式と記念研修の延期は、電話も十分に無いこの地域では連絡が行き届かない。当日来る人もあるだろうと、その対応のため当日朝から私はセンターで待っていたら、案の定、数名の研修生がやって来た。遠来のため前日から来ていた人もいて、その人たちに事情を説明し、お詫びを言った。すると彼らは皆口を

揃えて、「私たちの地域にこのようなセンターが出来たのは本当に嬉しい。是非研修に参加したい。楽しみにしている。」と言ってくれた。ポオーの人々に期待をされていることを実感できて、少しはやってよかったなという気持ちにもなった。

しかし、センター稼働はこれからである。地域の方々の期待にこたえられるような内容の運営、事業移管に向けたこのセンターの持続的運営の模索など課題はまだまだある。そのためには、我々の努力もさることながら、多くの方々の協力も必要になる。さしあたって、このセンターで1年程度の長期間農業を指導してくれるボランティアが必要である。お心当たりの方がいらっしゃれば、是非にご紹介頂きたい。

特定非営利活動法人
地球市民の会

第5回

通常総会

去る二〇〇六年五月二十一日（日）に、第5回通常総会が開催されました。多くの会員の方々や関係者の皆様方、里親会員さんのご参加を得、十八年度の事業計画案・予算案が可決されました。今年度の事業では、長年継続している海外協力事業と奨学金事業に加え、当会が支援している国々、タイ・スリランカ・ミャンマーにおいて、会員の皆様方や関係者の皆様に多くの体験をして頂き、国際交流・協力を実感して頂きたいと願っております。事務局も新しい体制で稼動を始めています。今年度もご支援頂きますよう、よろしくお願いたします。



古賀会長



通常総会の様子

アジアZADANKAI

総会の第二部として、九州において国際交流の分野で活躍されている方々にご参加いただき、「今のアジア」について大いに語って頂きました。

パネリストに佐賀県国際交流協会の小森郁子氏、JICA国際協力推進員の小野康子氏、れんげ国際ボランティア会・地球市民の会理事の平野喜幸氏、地球市民の会、副会長・多良淳二氏、そして当会会長・古賀武夫を交え、専務理事・山口久臣理事をコーディネーターに、「九州とアジア」。そして、その「今後」をテーマに、夫々ご自身の意見をパネルに書いて頂き、語って頂きました。深く考えさせられる話題に、熱心に、また時おり冗談を交えながら語られるお話に、終始和やかながら、

今のアジアを舞台に活躍されている方々ならではの、活気のある座談会となりました。ここで、その一部をご紹介します。

（以下、敬称略）



古賀会長「気合ば入れんか！」

■最近感じていること、気になっている事は？

古賀 「気合ば入れんか！」

自分も含めてなんですけど、生ぬるい世の中だなあと。本当に生きるか死ぬかくらい腹のきまった人間になりたいと思います。

小森 「忙しすぎない？」

これ、公的にも私的にも当てはまるのですが、人間忙しすぎるので優しさが見えなくなるし、忙しすぎて見える物が見えなくなっているのではないかと思います。

多良 「子供の環境」

子供の環境ですね。大人の責任だと私は本当に思うわけです。私達がきちっと生きていければということですね、なんとかせにやというふうに思っています。

小野 「つながっているな」

私は繋がっているな、とこの頃よく感じるんです。人とのつながりはもちろん、目標を持っていけば、少しずつそれに繋がって実現していつている。時間も人も気持ちも繋がっているなと思います。

平野 「毎日が異文化交流」

私は結婚してもうすぐ八年になります。私の家内は台湾人です、異文化交流というより文化摩擦が最近起き始めています。（会場笑）具体的に言うと、彼女の生活は今まで風呂に入ってなかった生活。日本人は毎日風呂に浸かる生活。お風呂の温度設定で、意見が違います。そういう文化摩擦が、毎日私のうちで繰り広げられています。



平野理事「文化摩擦を実感中！」



今 小野康子さん「つながってるな〜」

■アジアの中で自分が大好きな国、行ってみた国は？

古賀 「タイ・チベット」

タイはですね、何度も行った事もあるんですけど、チベットは行った事がないんですけど、中国の自治区の方に特に行ってみたかったですね。なにかチベットに対しては、やりたいな、行ってみたなと思います。

小森 「タイ・スリランカ」

タイはですね、佐賀県に来ている留学生達も多くて、仕事の関係で今まで出会ってきた留学生達とのお付き合いというのがあります。彼女達はすごくまじめで、優しく、彼女達を通して見れるタイというものを、私はすごく好きだなと感じてきました。

それからスリランカは、これも今はとても津波のために大変な状況で、生活がとても厳しいという事は聞いておりましたけれども、知人がスリランカで日本語を教えておられて、とても美しい国だよというの聞いておりましたので行ってみた国、ということ

で書きました。

多良 「スリランカ・モルジブ」

好きな所はスリランカ。何度か行っていますが、非常にすてきなすばらしい国で、いろんな仏教とのつながりがあるというところで学ばして頂いております。行きたいところはモルディブ。ユニスコの招聘事業で3回ぐらいホームステイ受け入れしております、そことのつながりがあり、とてもすばらしいすてきな国です。これがおそらくあと数年後には沈んでいくだろうということの危機感を私非常に感じております。だから沈む前には是非行きたいという風に思っております。

小野 「パキスタン・インド」

私は青年海外協力隊でパキスタンに派遣されて行きました。アジアの国の中で長期滞在したのはパキスタンが初めてで、生活するのはなかなか大変な所はあったんですけども帰ってくると、懐かしくなったり、特に食べ物とかが大好きだったので、好きです。行きたい国は、インドなんですけれども、



スリランカ大好き多良副会長

パキスタンにいるときにどうしてもインドの話題が出てきて、次はインドからパキスタンを見てみたいなと思っています。

平野 「ミャンマー・ミャンマー」

一九九八年から二〇〇四年までの六年間、ミャンマーにおりまして、離れ離れになっている家族がいっぱいいる所ですから、帰りたいと思っている、ただそれだけです。

~~~~~

九州とアジア、今後の付き合い方については？

平野 「日本の失敗を伝える」

先程多良さんが、今の子供たちの環境を非常に嘆いている、と言われましたが、日本が先進国なのかというと、果たして……。一年に三万人以上が自殺しているそうです。そして最近の殺人の多さ。もし先進国だったら、こんなこと起こらないと思いますね。どこかが間違っている、どこかの歯車が狂

っているというのが今のその文明じゃないかと思います。その辺の失敗をちゃんと伝えないといけないと思います。先日、ミャンマーから来日されたお坊さんが、日本滞在中での感想として「日本の大人は大人じゃない」と、述べられたそうです。その言葉は、今の日本の社会の現状その物を物語っているのではないかと思います。

小野 「気持ちをつなげる」

自分が好きな国の事をみんなが他の人に伝えて行く事、それが私にとっての交流ではないかと思っています。

多良 「思いやりの交流」

同じく心のつながりということ、これを一番におきたいなと思っております。同じ人間同士の付き合いだということ、一番の基本、原点にあることとして、国や文化が違っても同じ人間同士の思いやりの心があれば、きつという形の交流ができるだろうと思っております。それをアジア一杯に広げて行きたいと思っております。

小森 「人と人との出会いを結ぶ」

出会った人をキーパーソンにということ。たまたま縁あって外国から佐賀を選んで来てくれた人達というのが、今帰国してたくさんいらっしゃいます。佐賀で体験した事はきっと何かの形でその人たちが返してくれるのではないかと思います。その人達を私達の財産として、発信できたらいいなという気持ちでこういう事を書きました。

## 古賀 「人と人との交流の拡大化」

先日、ある方が「世界のすべての若者（高校生）が一年間、他の国で異文化を体験すれば、まったく違った世界になるだろう」とおっしゃったんですね。非常に共感を持ちました。人と人との交流の圧倒的拡大化をやっているか、いやいやいらないだろうと。交流というのは横軸ですね、歴史というのは縦軸ですから、やつぱりこう十文字になっているか、いやいやいけません。日本を含め、アジアの中でこういうことが行なわれてきたのか。ヨーロッパ、アメリカが近代に向けてどういうことをやってきたか、それからこの一千年二千年の尺度で見た時に、世界はどういう風に流れてきたのかということをしちつとおさえていかないと、表面的な交流に流れて行って、結局せん方がよかったなという事になりませんかという風に思っています。

## ■対アジア交流で私がやりたい事

### 平野 「新しい枠組み、指標を創造する」

例えば、高校の社会で日本は先進国だ、タイやミャンマーは途上国だということを教えられて、それを全く疑問にも思わないで過ごしていると思います。いろんな国にでかけてみると、世界中途上国ばかりだな、先進国なんて地球上にないなと感じています。全く違った価値観、新しい指標やパラダイムそういったものを、教科書にするとかですね。時間がかかると思いますが、そういったものを作って教えてい

かなければいけないかなと思います。それをやっていないと、新しい時代がやってこないんじゃないかと思えます。

### 多良 「親戚を増やす」

自分の所に一人でも多くの人を受け入れて、またこっからホームステイさせてもらって、そういったところの交流という部分を増やして行けば、世界中に親戚が増えて行くと言う意味で「親戚を増やす」ですね。人と出会って、その家族と仲間と友達が変わっていく、たらないなと思います。

### 小森 「伝える」

民間団体の方達と土作りをやっているつもりなんですけど、農業に例えようと。個人として何ができるか考えた時には、その土作りができた所に、好奇心の種をまいたり、思いやりや優しさの種をまいたりと考えています。見たことや聞いたことを伝えるということも大切だと思うので、伝える事をしていきたいなと思います。もう一つは、どういう人に向けて、どういう思いを伝えていったのか、そういうことも、これから自分の中で噛み砕きながら歩んで行きたいと思っています。

### 古賀 「死ぬまでには絶対に一度は会わねばならぬと思わせる自分であり、会、仲間と育てたい」

みなさん困った時にここに来ると幸せになれる。そういった仲間であってほしいと思います。そういう自分、仲間であればいいなと思いました。

## 山口

百聞は一見にしかずという言葉があります。葉がいろいろありますが、また、百体験は一感動にしかずという言葉もありません。つまり百回体験するよりも一回感動すると忘れませんよ、という意味です。古賀会長がよく言っています。「感動のない人生なんかぜんぜんつまらない」。まさにそうではないかと。そういう場として、地球市民の会の活動をこれからも長く続けて、繋げていければと思っています。



司会の山口専務理事

## 小さな種を大きな樹に・・・

このキャッチコピーを覚えておられますか？四年前の春に、“タイ奨学金受給生のノッポン君の大学への進学を支援してください”、というプロジェクトのキャッチフレーズでした。ノッポン君は、この春無事に大学を卒業して、バンコックの大手ホテルに就職することができました。日本が大好きで、日本語の勉強をして日本人のツアーガイドをすることが夢でした。日本語の勉強に関するレポートを、事務局に送ってくれたこともあります。彼の生い立ちをもう一度、ご紹介します。彼は、タイの地球市民奨学金の支援を受けていたクーキャオ学校の生徒で、大変貧しい環境の中で育っていました。父親は亡くなっており、母親は塩分を含んだ赤土から塩を作り、それを売って子供たちを育てていました。とうてい大学に進学することなど叶わない環境でした。でも、どうしても進学したいという気持ちを捨てきれずに、入学試験だけでも受けてみようとう大学を受験した結果、受かってしまった、という経緯がありました。担当の先生も、彼に進学を諦めさせるにはあまりにも残念だということで、地球市民の会に相談を持ちかけてこられたそうです。彼の諦めない気持ちが大きく育ち、夢を実現することができました。彼のことは、今後奨学金を受けて勉強している子供たちの大きな希望であり、夢に繋がっていくことと信じています。里親の皆様、ご支援頂いた皆様に心よりお礼を申し上げます。



# ミャンマーよもやま話

## 母である幸せ

大野 裕里

**ミ** ャンマー連邦南シャン州州都タウンジーで一昨年の11月から家族の奮闘が始まりました。田舎モンの私にとって、その時5歳の娘と1歳5ヶ月の息子を連れての初めての海外生活、特に辺境の地とあっては、不安だらけでした。ただ心の支えは家族みなと一緒に暮らしているという事実だけでした。そのような状況で、初めの頃はどのような生活を送っていたのかお伝えさせていただきます。

子ども2人を連れて片道40分の道のりを歩いて市場まで買い物へ行きます。町の人々は私たちを物珍しいものを見るように陰から指をさしながらこそそと話をします。私たちの行動は監視の目にさらされているようで、完全に異邦人として心安らぐことはありませんでした。

娘は中国人やインド人のためのインターナショナル・スクールに行くようになりました。彼女は毎朝、緊張の顔を浮かべ新たな試練に臨んでいたのですが、中国の反日運動の頃、学校で中国人の男の子に「JAPAN!!」と叫ばれて服に水をかけられたことがあり、事情のわからない彼女から「なにもしていないのにどうして?」と聞かれたときは切なく感じたものでした。

息子はミャンマーの人たちにとても可愛がってもらいました。彼と散歩していても、私が目を離したときには誰かほかの人に抱っこされ、その人の家に連れて行かれます。急にいなくなるので私はいつも冷や汗をかいていたものでした。

このような状況の中、当初しばらくはとんでもないところに来てしまったなあ気分も減ってしまっていました。しかし、落ち込んでばかりはいられません。子どもたちはけなげに頑張って生活しています。その姿を見て、「どうやってみんなが明るく、元気に生きていくか?」ということが母としての私の役割だと感じたのです。そう思って生活に向き合ったら、何故か気になっていたことが気にならなくなってきました。そうすると、ミャンマーの人々はいつしか珍しい外国人から、見知った隣人へと対応が変わってきたのです。自分の心がけ次第でみんなは変わってくれました。今では、この僻地で「母である幸せ」を感じながら生活出来るようにもなりました。

※大野裕里さんは、TPAミャンマー事業プロジェクトマネージャー 大野博之氏の奥様です。



中央が大野プロジェクトマネージャーの娘さん

## ミャンマーのモーターディ

TPAヤンゴンオフィス アドミニストレーター 長谷川朋子

**ミ** ャンマーは今、雨期の真っ只中です。日本の梅雨はひと月程度で終わりますが、ミャンマーの雨期はだいたい5月の下旬から10月まで続きます。「雨が降るとすぐに洪水になりますよ。でも雨が降ると涼しいです」とアシスタントのシュエさん。4月の暑さに辟易していた私は、洪水を恐れつつも気温が下がるのを楽しみに雨期を迎えました。

日本では梅雨には1日中雨がしとしと降り続きますが、ヤンゴンではついさっきまで青空が見えていたかと思うと、あっと言う間に雨雲が広がり土砂降りになります。雲の流れが早い時には30分程度で再び青空が顔を出しますが、雨雲が空一面に広がっているときは1~2時間降り続く時もあります。そんな時は案の定、雨上がりの道路は水たまり。洪水とは言わないまでも外に出るのがためらわれます。事務所の前の道路はそれでもまだ良い方で、一度ダウンタウンの別の場所で雨に降られた時は、膝までつかうような水たまりで行く手を塞がれてしまいました。すっかり怖気づいた私はぐるっと遠回りをするしかありませんでしたが、もちろんミャンマー人は慣れているのでこんな時も慌てず騒がず、水につかって歩いています。私が最もびっくりしたのは、足元まで水が来ているのに、屋台で普通に食事をして地元の人たちの姿です。

でも、溶けそうに暑かった4月が嘘のように、雨期になってずっと涼しい日が増えました。また、雨のおかげで木々の緑も映えてきれいです。乾期はもちろん過ごしやすですが、雨期のミャンマーも一度体験してみることをお勧めします。

\*題名のモーターディはミャンマー語で「雨期」を意味します。「雨が降る」はモークワデー。「雨」はモー、「降る」はユワデーです。

## ミャンマーの僧院

TPAヤンゴンオフィスアシスタント シュエ

**初** めて寄稿させていただきます、地球市民の会ヤンゴンオフィスアシスタントのシュエです。

ミャンマーは仏教徒の国なので、どこに行ってもパゴダ、僧院、僧侶を目にすることが出来ます。僧院には4種類あります。仏陀が言った教えを学校みたいに教える僧院、実際に修業する僧院、瞑想のシステムを教える僧院や、孤児院の仕事も小学校の仕事も行っている僧院もたくさんあります。

昔は政府は孤児院として機能する僧院は認めていなかったのですが、6年前からは認められています。でも孤児院とは呼ばれていません。なぜかと言うと、中には孤児ではない子もいるからです。その子供達はなぜ僧院に入るかと言う理由はたくさんあると思うのですが、主な理由は二つあります。一つ目は教育のためです。僧院が学費、食べ物や寝る場所をあげるからです。二つ目は政府に反対するグループの子供達が、むりやりに軍隊に入れられるのを避けるためです。

僧院は小学校5年生まで教えます。小学校が終わって中学校、高校、大学まで勉強したい子がいれば学費も生活費も僧院が出します。小学校が終わってお坊さんになりたい子は修業してお坊さんの勉強をします。それを選ぶのは自由です。

この僧院、もしご興味があれば、ヤンゴンにおいでの際にはご案内致します。ぜひご連絡ください。



## 地球市民の会事務局

# 行く人 来る人

### 専務理事 山口 久臣 (やまぐち ひさおみ)



研究所「O.E」を設立。所長へ。

●平成三年にNGO、NPO「コミュニティ・ネットワーク協会（コミニネット、CNA）」を発会。

●専務理事へ。

●平成十五年より、特定非営利活動法人法人「コミニネット協会」理事長。

### 【山口久臣の信条条文】

●心身共に健康で生かされている事に、心より感謝申し上げます。

●自分が変わらなければ、相手は変わらない。周りは、変わらない。

●自分自身の中に、しっかりと中心を定め、すべては天意現成とし、天意に従い、神意に従い、宇宙の法則に

則り、自然の流れに沿って、進むべき道を求めて行きます。

●どうぞ、この身でよろしければ、世のため、人のために、お使い下さいませ。

●あらゆる人のために心から祈ることの出来る自分でありたいと思います。

●人生の太いなる、夢とロマンと冒険をもとめて、日々そして、一時ひと時を大切にし、いつも、明るく、楽しく、元氣よく!!生きて行きます。

●いじけない。ひがまない。はらかかない。

●真つ直ぐに筋を通し、力を尽くして生きていきます。

●自然も社会も人も地域も地球も、すべては、バランスと調和が、大きなテーマである。

### 事務局長 西村 尚子 (にしむら なおこ)



五月の総会後より、事務局長として働くことになりました。何よりも、会員の皆さんや里親さんの皆さんとのつながりを大切に、意味のある活動を考えて行きたいと思っています。

福岡県出身で、結婚して佐賀の地に移ってまいりました。

した。独身時代は、商社で三年の間、鉄鋼を輸出する仕事をしておりました。タイ、韓国、中国、アメリカなど、とても馴染みのある国です。タイの首都・バンコックはその時期、経済の成長期でもあり、鉄鋼の輸出のリストに毎日のように載っていたものです。タイの奨学金を担当するようになったのも、何かの縁でしょうか。

タイ地球市民奨学金を担当して四年。地球市民の会の活動に参加して今年で五年目になります。多くの会員や里親さん、そして、素敵なタイの子供たちとの出会いが私の活動に対する心の支えになりました。海外の支援地タイに四回、ミャンマーに一回訪れて、学んだ事は数え切れません。訪れる度にその地との縁を感じ、国を超え

た思いやりの心は、ほんのりとあたたかい温もりをお互いの心に残しています。支援する側、される側。私たちはお互いに国が違っても、子供たちの心の平和と明るい未来を願う気持ちは変わりません。

忙しい毎日の中で、拙いながらもやればできると信じて取り組むこと、毎日の些細なことに正面から取り組むこと、心をかけています。

とは言うものの、寄る年波には勝てそうもありません。三人の若い事務局員達に、大いに頑張ってもらいたい……と、期待しています。事務局には笑顔と仕事に対する緊張感があふれています。ぜひ、事務局に立ち寄ってお話をお聞かせください。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

### 事務局次長 池田 祥規 (いけだ よしのり)



気づけば私もすっかりTPA界のお世話になり、二年目となります。ご縁により南から北まで魅力的な方々にお会いしながら、ずいぶん勉強させていただいております。主にミャンマー事業の国内調整を担当しております。

めことばかりですが、みなさまに支えていただきながら日々を過ごしております。

例えば私の場合も例に漏れず、ここに至るまでのひとつの経緯がありました。五年前に世界を震撼させたアメリカ同時多発テロ事件ですが、たまたま私は米国の地に居合わせてしまったのです。空が哭いていたのは後にも先にもあの時だけで、飛行機ひとつ見当たらず異様な夜空を見渡っては「なんと悲しい事件に出逢ってしまったら」と果然とするばかりでしたが、その結果がのちの英国での平和学であり、そして欧州から急遽故郷に引き寄せられた今であり、そこでみなさまにお会いすることが出来、ご縁であつたとうやうく感じる次第です。T



ERRAアピールから拝借させていただくなら、この世全ての存在はぶつ続きである、ということでしょうか。

最近「某タワー」なるタイトルの一小説を読み上げました。作中、何よりも家族関係のあたたかさに心が震えました。それはまさに、過剰なまでに現代文明に身を委ね、暴走した価値観に引きずられ、振り回されつつある社会にて、仮令脆くとも凜として輝きを忘れない人間のあるべき姿にも思えました。

ここではまさに、毎日がそうした方々、現象との遭遇です。私もそう在るべく、よく食べ、よく寝、よく笑い、(よく働き...!)日々の営みの一步一步を確実にしつつ、がんばっていききたいと思います。

まずはどなたか、事務局にお立ち寄りになった際には健康的な体重管理法をお教えてください(私の体脂肪率、アスリート並みです)！よろしくお願いいたします。



## 事務局員 畑 恵子 (はた けいこ)



初めまして。六月より事務局の一員となりました畑恵子です。童顔ですがこれでも二十五歳、中身は主婦っぽいとよく言われます。岡山出身、大学時代に三重や東京に住み、国内外での旅も好きな放浪っ子です。

海外で一人旅をしているときに受けた人々の温かみから国際協力に関心を持つようになり、TPAのスタッフ募集に応募いたしました。脱自分中心的思考を目指し、皆様に浄化されながら修行させてもらいます。将来的には現地駐在員を目指しています。ちなみに今後旅したい国はチベット、モンゴル、南米、中東で、国内では九州を自転車ツーリングしたいです。ただいま佐賀弁勉強中！

趣味は自転車と料理&お菓子作り☆得意料理は野菜を多用したもので、和食を作ることが多いです。季節・体調に関わらず食欲旺盛な食いしん坊で、好き嫌い無く何

でも食べます。ど派手なレーサー格好でサングラスをかけ、自転車に乗っている女を見かけたら多分私ですの、怖がらずに、気軽に声をかけてください。岡山⇒桃太郎ということでモモコと呼ばれています。のんびり屋ですが食欲に仕事ができるよう頑張っています！宜しくお願いします！



## 事務局員 吉岡 加代 (よしおか かよ)



初めまして。吉岡加代といます。今回、地球市民の会で働かせて頂く事になりました。学生時代から国際的な仕事に興味があり、ボランティアを通じて韓国や中国の方と接するうち、縁あって韓国に渡り、日本語教師として過ごしました。

彼らのキムチパワーとも言つべき熱い熱すぎる!!国民性に負けじと二年半格闘し、何があってもケンチャナ(大丈夫)と言い張る彼らの精神と、お酒のマナーを習得し?!帰国。帰国後は、地元の小学校で補助教員として一年、算数や国語のT.T.的役割で全校生徒と関わらせて頂き、二年目からは同小学校にて生活介助員として勤務させて頂きました。うるさいくらい元気で、明るくたくましい、子供達に囲まれ、精神面でも、肉体面でも鍛えられた二年間でした。契約期間を終え、何かまたあのエネルギーで、感動を味わえるような仕事したいと思っていた所、この仕事に巡り合いました。毎日が初めての事ばかりで、戸惑いながらも、温かくユーモア溢れる事務局のみなさんに迎えられる(?)日々楽しく、勉強させて頂いています！これからたくさんさんの出会いと、体験の中で、自分も一緒に成長できたらと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

## 「あつという間の三年間」

### 事務局員 山田 貴子



地球市民の会にいた三年間は本当にあつという間でした。友人も知人もないこの佐賀の土地で、最初は右も左もわからず、ただがむしやらの目の前のことをなす日々でした。一、二年目は、

季節の移りかわりさえ感じる余裕がなかったというのが正直なところですが、しかしながらそのような慌しい毎日の中でも事務局では、毎日日本にたくさんの方々にお会いすることができました。その中で交わしたみなさんとの言葉、一緒に重ねた時間が今の私を支えています。

人は一度出会った人とは生涯別れられないと言います。これは、たとえ一言しか言葉を交わさずとも、五分しか共に時間を過ごさずとも、その間に相手から受けた影響は意識しようがまいが生涯にわたり、形を変えて自分に何らかの影響を与え続けるという意味です。ある人との出会いの中で交わした言葉が、時間が、感覚が、時を経たあふとした時に、自分が何かを考えたり、気づきを得るためのきっかけとなったり、自分の人生を根幹から覆すほどの大きな示唆であったことに気づくことがあります。そういった意味で、これから私が歩いていく過程において、この地球市民の会を通して出会った方々のことを思い出さない日はかなり少ないはず。そんな大切な時間を下さった皆様、本当にお世話になりました。この場をかりて改めてお礼申し上げます。

また、現時点では十二月から二年間、スリランカに行くことになっております。物理的には離れてしましますが、まだまだ未熟な私です、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



# サワディー

—タイからの手紙—

## ほほえみの国から サワディーカー

その①



**皆**さん、はじめまして。私は、青年海外協力隊17年度1次隊青少年活動として、タイに派遣された今村祥子（さちこ）といます。

今回は、皆さんに私が、タイでどのような活動をしているかご紹介したいと思います。

最初に、私の職種の青少年活動について少し説明したいのですが、皆さんは、青少年活動と聞いて、どのようなイメージを持たれますか？非常に漠然としていて、具体的にどんなことをしているのか、想像し難いのではないのでしょうか？

実際、この職種は多岐に渡っていて、施設でカウンセラー的な働きをしている人、バドミントンやエアロビクスを教えている人、少年刑務所の刑務官として働いている人など、多種多様で、これと一括りにすることはできません。ただ、共通していることは、青少年を対象として、その育成に関わるということだけです。

タイで、ボランティアとして活動を開始して、早8ヶ月。あっという間の暗中模索の日々でした。ただ、少しずつタイの学生と触れ合う中で、自分自身の在り方を考えさせられたり、タイという国の様子が少しずつ見えたりしてきました。そして、青少年と関わっていくことの難しさ、面白さも少しだけわかった気がします。

私がこの8ヶ月間、どんな活動をしてきて、何を感じたか、また今後どのように活動を展開していくのか、ご紹介していきたいと思います。

まず、私の具体的な要請案件は、文化財の保護啓蒙活動を地域住民、特に青少年を対象に行うということでした。

現在の私の配属先はロブリー県ターウン郡役場というところですが、ロブリー県は、日本人街や遺跡で知られるアユタヤの北、ほぼ車で1時間ほどの場所に位置し、アユタヤ王朝時代諸外国の脅威から逃れる為、当時のナライ王が王宮を移した場所です。なので、旧市街地には、アユタヤ王朝時代の建造物が今もあちこちに残っていて、歴史を感じさせます。それらの建造物の1つに、ナライ王に重用され、総理大臣の地位にまで登りつめたギリシャ人ファルコンの屋敷跡があります。彼の妻はマリという日本人女性で、彼女がタイの人に教えた長崎伝来のお菓子は、今も街角でよく売られています。他に佐賀の人たちが親しみを覚えると思われるのは、アユタヤは当時貿易の中継点で、オランダ東インド会社を

通じ長崎から有田焼が輸出されていましたが、ここロブリーにも有田焼がチャオプラヤ川をのぼって伝わっていました。佐賀出身の私としては、不思議な縁を感じなりません。毎年3月に、ナライ王を偲ぶお祭りが王宮跡（現在は博物館）で行われます。その時代の人達に扮した劇が行われますが、そこでフランス人やオランダ人に混じって、羽織袴を着た日本人（らしき）が登場します。このように、日本とタイに交流の歴史があったこと、有田焼がもたらされたことを学生に伝えて、日タイ親善の1つのきっかけになればと思っています。

実際、タイの高・大学生の日本に対する興味は高く、日本企業の進出もあって、日本語教育も高校から盛んです。私も、週に1回ずつ2つの高校で教えていますが、皆日本の歌手もよく知っていて、宇多田ヒカル、ジャニーズなどが特に人気があるようです。

他に、大学生を対象にキリスト教の宣教師と共に、放課後英語を教えるボランティアをしています。タイの学生は少しシャイで、素直で、明るく思いやりのある子が多い気がします（時間・約束に関してはかなりルーズですが）。日本人が失くしてしまった美德のような物を彼らから感じるがあります。

しかし、そんな明るい彼らからもこの国が持つ問題点が見え隠れすることがあります。この国は、男性の浮気が多いせいか、非常に離婚率が高く、家庭に複雑な背景を持つ子も少なくありません。寂しさのあまり、麻薬などに手を出す子もいるようです。ゆったりとして、のどかな日常の中に潜む落とし穴。減少しないHIVも大きな問題の1つです。また、HIV感染者や山岳民族に関する差別なども、学生たちに考えてもらいたい伝えたい問題だと思っています。弱者に対する態度に、いつも見せてくれる思いやりがあまり見当たらない気がするのです。

急速に発展していく中であって、物質的な側面に偏りがちなタイ。そこで、一番影響を受けていくのは、子供達です。

本当にとるに足りない微力な存在かもしれないけど、外国人としての視点から、この国の文化や社会的問題を、学生たちと一緒に後残りの日々考えていきたいと思っています。

そして、この国の人達の持つ心の豊かさや、思いやりの心が失われることがない様に、切に祈ってなりません。



# 協力者一覧

平成18年4月から6月  
までの集計です。敬称略

## ◆継続会員

ご継続ありがとうございます。

### 【正会員】

溝上 茂・上野 知子・前田 伸二  
植木 宏徳・弥富 雅信・岡本麻里子  
北島 雅治・飯田 数美・八坂 信雄  
平野 喜幸・西村 一守・安心院晶子  
永倉理一郎・吉次 孝・丸山 文章  
西澤 和明・原 利幸・横尾 孝幸  
原口 一博・八谷まち子・太田記代子  
無量井知昭・大園隆二郎・溝内 明  
千田 登・永富 文・中山 靖雄  
峰 悦男・夏秋 葉子・力武 修  
西村 俊光・植田 和実・神山 秀美  
中曽根健三・秋葉 幸伸・藤雅 仁  
山口スミ子・土井 敏行・副田 峰子  
田島 広一・杉光 省五・川副 春海  
安徳 政司・桑原 允彦・菊野 善久  
関本 節子・坂井 学・力久 修  
井本 勇・鶴岡 昭雄・井上 陸平  
梅山 佳美・白濱美保子・大島 泰輔  
岡本 明久・大串 博史・指山 弘養  
前田 昌子・杉本 亙・岩田三千生  
宮田 フサ・井上 議・井上 常憲  
保利 耕輔・今村 雅弘・堤 清行  
満岡 聡・芦刈由美子・副島 雅雪  
中村 俊範・水野 新平・原 康彦  
吉田 英雄・佐久間 博・弓 正純  
砂田 昭彦・栗田 明・桃谷 松美  
川崎 稔・南畑 みき・二町 一成  
堀口 勝郎・古賀 康宣・櫻井 愛子  
富吉賢太郎・福田 耕平・杠 研一郎  
杠 好秋・阿部 功・薩摩 和男  
佐藤 昭二・中島 康子・阿部 剛  
山口 廣・中島 法道・麻生 靖史  
中野 典正・野上 俊樹・井手 保昌  
尾崎 義朗・瑞木 一博・松尾雄次郎  
古賀 和夫・大串 俊三・稲垣千佳子  
西川 黎明・西村 康年・松田 定昭  
大野 勝・宮嶋 寛治・宮嶋 美子  
坂井 知子・野本 正彦・土井美智子  
瀬戸 法子・成尾 雅貴・土井美智子  
江原 道郎・横島 龍一・川崎 千恵  
長澤 京子・相川 満雄・池田 瑛  
森永 勝馬・川松 広栄・天ヶ瀬三津代  
山下 雄司・大迫 勝博・古川 康  
古川ことと・七田 秀徳

### 【維持会員】

太田記代子・福岡 資磨

### 【購読会員】

古賀 久志・山下 文子・岡本 明久  
高田理恵

### 【学生会員】

松尾 大輔・梅山ひろみ・梅山 広勝  
山下陽子

### 【少年会員】

山口裕太

### 【団体会員】

(株)福岡商店・(株)佐電工  
(株)中村電機製作所  
九州電力(株)佐賀支店  
佐賀信用金庫  
平湯コーポレーション

## ◆地球市民奨学金

ご継続ありがとうございます。

### 【タイクーキャオ中学校】

中塚美紀子・牛草 茂蔵・大野 圭子  
原田 直美・原口 洋一・坂井 学  
小林 弘明・山田 利明・太田 敏子  
櫻井 淑康・吉田 英雄・谷口 梨紗  
稲富 正人・於保 孝子・松谷 清志  
富野ともえ・寺井 勝雄・末次 摂子  
田中 律子・藤木 修・平岡 修二  
長澤 京子・古川ことと

### 【タイクーキャオ高校】

宮本 清造・副田 峰子・谷口 朋子  
藤井 博・杉光 省五・大霜 昭雄  
松谷 清志・細貝 睦子・平野 良一  
里中 長治・中島 元昭・辻本 清子  
大野 勝・藤木 修・平岡 修二

### 【タイボーゲウ校】

西村 一守・福岡 資磨・三宅 芳郎  
山田 信弘・東 勇太郎・佐藤 昭二  
細貝 睦子・根立 勤也・山口 峰子  
辻本 清子・龍 千秋・佐藤さち子  
森永 邦子・土井 敏弘・江崎サト子  
野口尚子

## ◆2006地球市民奨学金

これからよろしくお願いします。

### 【タイクーキャオ中学校】

五十嵐雄道・馬場 勝臣・宮嶋 寛治  
宮嶋 美子・奥園 弘・新田 一雄  
大霜 祐子・森 美由紀

### 【タイクーキャオ高校】

宮嶋 寛治・宮嶋 美子

### 【タイボーゲウ校】

松本 裕・奥園 稔

## ◆書損じはがき・古切手 他

いつもありがとうございます。

松本 裕・唐津市社協相知支所  
NHK佐賀放送局アナウンス部  
堤 清行・的野 生子  
グローバルシステムジャパン  
NHK佐賀放送局  
佐賀中部保健所福祉事務所  
基山社会福祉協議会・円城寺久好  
緒方 賢義・宮崎 照子・満岡内科  
麻生美矢子・磯部 芳子・目野 亜美  
横山真為子・山田 信弘・福田 昭子  
前田 英彦・山口 峰子

## ◆寄付金

ご寄付ありがとうございます。

### 【事務局支援金】

佐藤さち子・中溝 澄子・熊谷 昭二  
多良 淳二・藤 雅仁

### 【ミャンマー協力金】

12会

(財)佐賀県国際交流協会

川原 理子・TPAK

### 【ミャンマー文房具寄贈】

ミャンマージャパンソフトウェア  
郡 義興・根本 哲

# 活動報告・予定

## 活動報告

4/22(土) 長谷川ヤンゴン調整員 ミャンマーへ  
4/27(木) 地球市民の会 第10回理事会  
5/9(火) NPOセカンドハンド 視察(〜5/11)  
5/15(月) 地球市民の会 かながわ 来訪  
5/21(日) 新規採用職員入局式  
地球市民の会 18年度第1回理事会  
地球市民の会 第5回通常総会  
社協力隊を育てる会 増子 建氏来訪  
佐賀県地域づくりネットワーク協議会総会  
佐賀県内国際交流団体の集い  
佐賀市国際交流協会総会  
日本私学給食協会理事会 総会  
株佐賀銀行・書損じ葉書きの贈呈式  
JICA国際協力推進員・河野由佳氏来訪  
ミャンマー委員会  
スタッフ研修会  
福岡にて講演会 古賀会長  
佐賀市医師会立看護専門学校合同会議・懇親会  
鹿島にてスタッフ農業研修  
佐賀市立循誘小学校2年生・職場訪問  
JICA関係者連絡会議  
佐賀県立総合看護学院保健学科学生ボランティア来局  
青年海外協力隊 表敬訪問  
佐賀県国際交流協会・総会  
佐賀県ボランティア連絡協議会総会  
ミャンマーインターン選考会  
ミャンマー委員会  
地球市民の会 第2回理事会  
佐賀県マレイシア協会総会・懇親会  
教職員対象不審者対策護身術講座 古賀会長  
(特活)コミネット協会・総会・懇親会  
総合学習「国際交流」に関する講演会 丸田理事  
関西国際交流団体協議会 20周年レセプション  
佐賀県国際交流・協力フェスタ 打合せ  
7/2(日)〜4(火)  
映画「人間の翼」神戸市外大にて上映会  
アジアガーデン・ワークショップ  
森林復元ワークキャンプ(〜19日まで)  
リスクマネジメントセミナー  
ミャンマー委員会・第3回理事会  
ひらお台四季の丘小学校視察  
北九州・福岡地球市民の会と会合  
アジア自然学校の打合せ 熊本にて

## 活動予定

7/21(金) TOYP大賞・授賞式に参加 古賀会長  
7/21(金)〜 アジア自然学校(イングリッシュキャンプ in 阿蘇)(〜23日)  
7/25(火) 佐賀県国際交流・協力フェスタ 打合せ  
8/17(木) アジア自然学校・ミャンマーエコトレック(〜24日)  
8/26(土) ミャンマー委員会・第4回理事会  
9/5(火) アジアガーデン・ワークショップ(第2回)  
9/24(日) 佐賀県国際交流・協力フェスタ(アバンセにて)  
10/24(土) アジアチャリティバザー

# 新古賀で買物すれば得した気分!

取り扱い商品

- 呉服
- 時計
- 貴金属
- テレビ
- ビデオ
- カメラ
- ステレオ
- パソコン
- デジタルカメラ
- ブランドバッグ
- 商品券
- などなど

お客様に そう言われて 45年。  
ぜひ一度ご来店下さい。



ディスカウント・リサイクルショップ・商品担保貸

新品・中古品  
下取り  
受け  
OK!

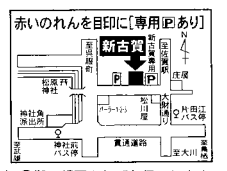
# 新古賀

佐賀市松原3丁目(日釜さん通り)

FAX(0952)25-5767 ☎(0952)22-7298(代)

営業時間/AM9:00〜PM9:00 定休日/第1・第3・第5木曜日

●その他何でもご相談下さい。●各種クレジットもご利用できます。●御一報下さればお伺いします。



## 地球市民ネットワーク

### 北海道地球市民の会

〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197  
会長／阿部功 事務局／新保知博  
TEL・FAX：0133-74-1296

### 地球市民の会ふくしま

〒963-8681 福島県郡山市喜久田町卸1丁目120-1  
(株)石黒  
会長／事務局担当 石黒秀司  
TEL：024-959-6426 FAX：024-959-6577

### 地球市民の会東京

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13  
信州会ビル4F (株)ナチュラル内  
会長／津川宏幹 事務局／青木高広  
TEL：03-3662-0331 FAX：03-3662-0400  
E-mail：aoki@nun.co.jp

### 地球市民の会かながわ

〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203  
会長／松澤幹治 事務局担当／近田真知子  
TEL・FAX：045-622-9661  
E-mail：port@tpak.org

### 地球市民みえの会

〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターパレス3F  
津市市民活動センター内  
会長／伊藤洋之 事務局担当／秋葉幸信  
TEL：059-226-5700 FAX：059-224-8911  
E-Mail：miemiemiemi21@hotmail.com

### 地球市民の会ぎふ

〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1 竹花園内  
会長／森幹治 事務局担当／平井八重子  
TEL：058-391-5415 FAX：058-391-8600

### 愛媛地球市民の会

〒790-1121 愛媛県松山市中野町甲640  
はばたき授産園内  
会長／篠崎和夫 事務局担当／丹生谷宗久  
TEL：089-963-3772 FAX：089-963-3795

### 地球市民の会福岡

〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4  
(株)増屋内  
会長／増田誠司 事務局担当／西村和寿  
TEL：092-801-5888 FAX：092-801-5789

### 北九州地球市民の会

〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14  
中央会館2F  
会長／河野一郎 事務局担当／大山研児  
TEL：093-521-8181 FAX：093-551-2296

## ネットワーク・テラ 夏号 VOL.124

発行：特定非営利活動法人 地球市民の会  
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10  
ホームページ：http://tpa.nk-i.net  
E-mail：office@tpa.nk-i.net  
TEL：0952-24-3334 FAX：0952-24-7321

発行日：2006年8月7日

発行人：古賀武夫

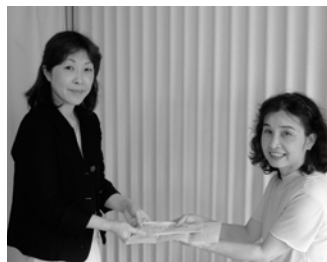
編集人：地球市民の会 事務局

印刷：株サガブリんてぃんぐ



## 佐賀県国際交流協会よりご寄附いただきました

昨年度、佐賀県国際交流協会主催のミャンマーツアーでTPAプロジェクトサイトを訪問された方々がミャンマー写真展を開催され、そこで集まった寄附金31,842円をTPA・ミャンマー事業にご寄附いただきました。同ツアーメンバーの方々からはツアーが終わった後も引き続き様々な面でご支援いただいております。心より御礼申し上げます。



## (株)佐賀銀行様より 書損じ葉書きと古切手を贈呈して頂きました

団体会員の佐賀銀行様より、書損じ葉書きと古切手のご寄付をいただき、去る5月29日に贈呈式が執り行われました。お忙しい業務の中で、一枚一枚の封筒から古切手を切り取る作業をして頂いているとのこと。皆様のご支援に心よりお礼申し上げます。

ご協力頂いた古切手は専門の方に引き取って頂き、現金に換えてミャンマー・タイ・スリランカの支援に使わせていただいております。



## 編集後記

子供の頃、遠くに流れる大きな川を見て、常々その流れに浸りたいものだと思っていました。大きく美しい水の流れに手を浸すときと心地よく、水辺は美しいものだと思っていました。

ある日、私は一大決心をして、その川のほとりまで足を踏み入れました。しかしながら、川岸は多くの水分を含んだ草や土で覆われており、私の靴は泥まみれ、危うく水のくぼみに足を取られて流されるところでした。遠くからの美しい景色との落差と、足をとられそうになった恐ろしさの幼い時の体験は、今でもしっかりと覚えていて、人間が手を加えて美しく整備されている現在の川は、いつでも人間が手をさしのべて、その流れに触れることができます。自然の偉大さと驚異を身近に感じることはない、作られている自然・・・。

自然と共に、自然を感じながら生きるこの少ない私たちの毎日は、生きるこの意味が無機質なものになっているように思えてなりません。パソコンの前に毎日座り、実際に体験することのない世界を簡単に知る事ができ、いわゆる肌で感じるこのない世界で、人と人との摩擦や触れ合いをなくしています。自分の感情を伝えることもなく、傷つくこともほとんどありません。大人達が自ら生きる自信と指針、そして生きる元氣を持っていないために、子供達は何を目標に頑張っているのか判らない。揺れる子供達の心が新聞紙上の事件として表れているのでしょうか。私も人の親として考えさせられる毎日です。

自然の美しさと厳しさ、そして、その恵み。私たちはそれらを認知、尊敬し、次代の子供たちに伝えていく責任があるように思えてなりません。いのちを大切に、心の豊かな時代が来ますように・・・。(尚)

## 今号のひとこと



- ◆北海道の富良野の景色、もう一度行きたい! 納富
- ◆キャンプ、ツーリング、自転車レース、カヌー・・・  
やっぱOUTDOORでしょう! 畑
- ◆韓国で食べた超～特大のかき氷!! 思い出します。吉岡
- ◆遠～くから聞こえる風鈴の音色・・・  
子供心に風流を感じたものでした。西村
- ◆夏が過ぎ風あざみ。一夜の華に、和の心～ 池田